

## 編集後記

編集委員会に入り早1年半以上が過ぎたところだが、ついに編集後記の依頼が来てしまった。何かの手違いで回ってこないのではないかと半ば期待していたのだが、そんなことはなかった。このような作文は大の苦手である。思えば幼少期のころから遠足やら体験学習やらの際に毎回書かされる感想文には小一時間頭をひねって「おもしろかった」とか「たのしかった」の一言しか書けなかったのをよく覚えている。夏休みの読書感想文などはまさに地獄であった。見かねた親に、近所の作文を教える塾に通わせてもらったが、苦手意識を克服するには至らなかった。もっとも、ここで塾に通っていなければこの編集後記でも「たのしかった」しか書けなかったのではないかと思うと、親には感謝しかない。

正直に言えば、このような自由作文に限らず、研究者として大分問題ではあるが、論文における作文も苦手である。図と表と数式だけで論文が書けたらどれだけ楽かと思う。なぜ未だに“文章”という、文字を一行に並べていく形式を論文に用いるのであろうか。この形式は論文を書く上で

非効率的であるように思う。例えば、4つの事象について説明する場合、2事象間の関係性だけでも6通り存在するが、これをわかりやすく表現する方法として一行に並べる形式が適切とは思えない。実際に論文で説明したい事象は4つ以上のこともあり、関係性も2事象間だけではなく評価軸も複数あることを考えると、話はより複雑である。音声による会話であれば、時間軸に対して音を順々に並べていくことになるので一行に並べる形式になるのはわかるし、人類における意思疎通が音声からはじまっていることを考えると、初期の書き言葉が“文章”になるのは理解できる。しかし最初に文字が出現してから数千年が経っているわけだから、もう少し進化した形式が一般化していても良いのではないか。

とかなんとか書いてきたが、新しい表記形式を作って普及させるのは難しいだろうし、実際にこれをやろうと思ったら更に多くの作文が必要となるのだろう。どちらにせよ作文の必要性が直ちにはなくなることはないので自己研鑽に努めたいと思う。(中村友祐)

### プラズマ・核融合学会 役員

会 長：花田磨砂也  
副 会 長：大野哲靖 坂本瑞樹(推薦委員長：学会賞・男女共同参画委員長)  
常務理事：榊原 悟(総務委員長)  
理 事：渥美寿雄 居田克巳 稲垣 滋(企画委員長) 井 通暁(年会運営委員長・研究部会連絡委員長)  
大原 渡 兒玉了祐(広報委員長) 古閑一憲(支部・地区研究連絡会委員長)  
坂本克也 仙波智行(財務委員長) 高木浩一 高橋幸司(企業展示検討委員長)  
田中康規 鳥養祐二 村上 泉(編集委員長) 山田弘司(推薦委員長：研究助成)  
吉田麻衣子  
監 事：前田達志 波多野雄治

### プラズマ・核融合学会 領域長

基 礎 大原 渡(山口大) 応 用 田中康規(金沢大) 核融合プラズマ 居田克巳(核融合研) 核融合炉工学 渥美寿雄(近畿大)

### プラズマ・核融合学会誌編集委員会

編集委員長・チーフエディタ：村上 泉(核融合研) 副委員長：鳥養祐二(茨城大)  
エディタ：三瓶明希夫(京都工繊大)、重森啓介(阪大)、高橋裕己(核融合研)、石澤明宏(京大)、大矢恭久(静岡大)  
編集委員：伊藤 悟(東北大)、犬伏雄一(JASRI)、太田雅人(核融合研)、小田靖久(摂南大)、梶田 信(東大)、  
葛山 浩(鳥取大)、河内裕一(名大)、熊谷公紀(QST)、篠原正典(福岡大)、白戸高志(名大)、鈴木陽香(名大)、  
瀬戸春樹(QST)、曾根宏隆(豊田自動織機)、高橋一匡(長岡技科大)、武村勇輝(核融合研)、中村友祐(名大)、  
成田絵美(京大)、難波慎一(広島大)、沼波政倫(核融合研)、信太祐二(北大)、浜地志憲(核融合研)、  
廣田 真(東北大)、松岡清吉(QST)、文 贊鎬(九大)、本島 巖(核融合研)、柳生義人(九大)、山崎広太郎(広島大)

乱丁・落丁本は、ご面倒ですが学会編集委員会宛ご送付ください。送料当方負担にてお取り替えいたします。

### プラズマ・核融合学会誌第102巻第3号

編集・発行  
〒464-0075 名古屋市千種区内山3丁目1-1 4階 印刷 株式会社荒川印刷  
一般社団法人 プラズマ・核融合学会 編集委員会 2026年(令和8年)3月25日  
Tel. 052-735-3185 Fax. 052-735-3485  
E-mail: plasma@jspf.or.jp URL: https://www.jspf.or.jp/ 定価1,430円(本体1,300円)

本誌に掲載された寄稿等の著作権は一般社団法人プラズマ・核融合学会が所有しています。